

No.	21	分類	2-(2)-ア	資料名	知らず知らずに	学年	2・3年	領域	特別活動（学級活動）
-----	----	----	---------	-----	---------	----	------	----	------------

1 ねらい

- 自分のなかに知らず知らずのうちにある偏見に気づき、それが、人を傷つけたり差別を引き起こしていることを認識し、科学的に正しく物事を捉えていこうとする気持ちをもつ。

2 趣旨

その1…東日本大震災でも多くのうわさやデマが事実のように流れた。人の言動に惑わされず正しく見極めようとする力を身につけ、人権に配慮した行動がとれるようにさせたい。

情報教育やメディアリテラシー教育の導入として活用することもできる。

その2…普段当たり前だと思っている固定観念に気づくとともに、イメージが偏見や差別へとつながることがあるという仕組みを理解させる。

その3…一定の層に注目が偏り、年齢や性別の偏りがあることに気づかせる。障害のある人など社会的弱者はあまり登場しない事にも気づかせ、その理由や改善の方法を考える。

その4…男女の固定的役割分担意識を見直す。政治家は男性が多いことや、男性が管理職になることが多かったり、女性には補助的な仕事が任されたりすることがあるなど、職場、育児や介護の場面などでも男女平等と言えない状況もあることに気づかせる。

3 配慮事項

- 指導者の考えを押しつけることがないように留意し、指導者は、授業のファシリテーターに徹し、多様な考え方を尊重する。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 その1について考える。 どうして大騒ぎになったのか。原因はどこにありますか。 ○「津波が島にやってくる」の話を聞いて話し合う。	・大震災の時に実際に起こったうわさやデマの実例について話す。 ・情報の発信源やいつの時点での情報かなどを考え、間違った情報を見分けていく必要性を認識させたい。
2 その2について考える。 職業についていただくイメージを比べてみよう。 ○自分が「トライやる・ウィーク」で取り組んだ職業についてのイメージを紙に書いてもらう。その後、実際に体験して感じたこととのギャップを発表する。	・発表後、感じたことについて話し合わせる。固定観念に気づくとともに、うわさや思い込みにもとづく場合があることに気づかせる。
3 その3について考える。 どんなことに気がつきましたか。 ○各班に雑誌や新聞等の出版物を1冊用意し、人物の写真を形に沿って切り取り、男女別、年齢別に模造紙に貼り付け、気づいたことを話し合う。	・出版物の写真以外に、漫画、映画、アニメ番組、ドラマ番組、好きな曲の歌詞などに登場する人物等について調べ書き込むなどの方法でもよい。
4 その4について考える。 ○本資料P52の表に各自記入し、結果を話し合い発表する。 どうしてそう思いましたか。 ・自分の家では機械をいじるのはお父さんが多い。 ・社長や政治家は男性が多い。 ・女性は優しいイメージがある。	・自分のなかに性別による固定的な役割分担意識がないか認識させる。 ・男女共同参画を実現することで、男性にとっても、女性にとっても、自分を発揮できて、各々の能力が活かせる社会となることを認識させたい。